

SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

# SOCCER TOCHIGI

(社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19  
TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330  
URL <http://www.tfa.or.jp/>

発行責任者：森山眞弓



# vol.76

平成20年12月10日発行

## contents

- ① ホームページが変わります
- ② サッカーファミリーフェスティバル
- ③ JFAキッズフェスティバル
- ④ 日本クラブユースサッカー選手権大会 (U-15) 栃木県大会
- ⑤ 高円杯全日本サッカー選手権大会 (U-15) 栃木県大会
- ⑥ 女子関東大会が地元で開催・Amaralo/藤FCが全国へ
- ⑦ 盛り上がる高校女子サッカー
- ⑧ RESPECT THE GAME
- ⑨ 2008栃木県ユースサッカーU-18リーグ 1部リーグ結果
- ⑩ 2008栃木県ユースサッカーU-18リーグ 2部リーグ結果
- ⑪ 矢板中央高校、1部に昇格
- ⑫ 第32回全日本少年サッカー大会栃木県大会
- ⑬ 第37回栃木県少年サッカー選手権大会
- ⑭ クラブカップ優勝と関東大会を経験して
- ⑮ 朝ごはんが作戦会議になる日
- ⑯ 賛助会員 / 編集後記



## 栃木県サッカー協会 ホームページが変わります

# 1月1日 リニューアル・オープン!!

## <http://www.tfa.or.jp/>

### お気に入りの変更をして下さい

FAIR PLAY PLEASE  フェアプレイを心がけましょう

## サッカーファミリーフェスティバル

9月15日に第1回栃木県サッカーファミリーフェスティバルが栃木県総合運動公園の陸上競技場とサッカー場で開催された。このフェスティバルは(財)日本サッカー協会が創立記念日である9月10日を「JFAフットボールデー」と制定し、多くのサッカーファミリーが集い、サッカーファミリーの輪を広げる目的のため、(社)栃木県サッカー協会が、より多くの方々が参加できるイベントとして開催した。

陸上競技場では保護者と一緒に「めざせクラッキ」の検定を行い、子供たちは真剣に検定を受けていた。その後のキッズの交流戦では関東リーグ所属の日立栃木ウーヴァスポーツクラブとヴェルフェたかはら那須の選手たちも参加して子供たちに負けたくないよう、張りきってプレーしていた。



日立UVAの選手と一緒にキッズ交流戦

昼食をはさんで小学生高学年による「めざせファンタジスタ」の検定、栃木SCによるサッカー教室が開催され、選手たちと触れ合いながらサッカーを満喫していた。



栃木SCによるサッカー教室

また、サッカー場のAコートでは第1回栃木県PK選手権大会が開かれ、26チームの参加があった。サッカーのルールを知らなくてもPKは知っている人もみんな楽しんでイベントであり、参加者以上に周りのギャラリイが盛り上がっていた。ファミリーの部はJEFクオーレBが優勝し、一般の部ではFC WATHLETAが見事に第1回の優勝に輝き、歴史に名を刻んだ。



一方、サッカー場のAコートでは女子・シニア交流戦が行われた。お互いいつもと違う相手のためか気合が空回りしてしまうシーンが多数見受けられ、真剣勝負の中にも笑顔を見られるとても楽しいイベントであった。



試合前なのか元気(?)な女子チーム

今回のフェスティバルは、初めての試みであったが、各連盟の役員が協力して何とか運営することができた。参加者も800人、観客やスタッフも含めて1280人とイベントとしては大成功であった。また、「地域リーグ所属のチームが協会のイベントに協力するのはとてもいいこと」と(財)日本サッカー協会PHQ湯川和之係長は感心しながら視察をされていた。

[記録広報委員長 川端宏之]

## J F Aキッズフェスティバル

キッズ委員会 委員長 金井 理

今年度、10月までに県協会主催でJ F Aキッズフェスティバルを3回行いました。このフェスティバルは、体を動かすことが「楽しい、うれしい、もっとやりたい」をキーワードに勝敗にこだわらないリーグ戦方式で行っています。また、試合ばかりではなくキッズインストラクターによるクリニックなどを通して動き作りの運動や全身でボールを使った運動なども紹介しています。



親子でめざせクラッキ

今年度は、リンク栃木ブレックスの選手の皆様にも協力いただいたりめざせクラッキに親子でチャレンジしたりしてきました。参加して下さるどのチームにも、この趣旨をよく理解していただきチームの監督さんや保護者の方々による温かい声援の中、子供たちの元気いっぱいのプレーが繰り広げられました。6月にU-6、9月にU-8、10月にU-6を行いました。3回とも多数の応募があり残念ながら参加できないチームもありご迷惑をおかけしている次第です。しかしながら、J F Aキッズフェスティバルに対する認知度



保護者の応援の中でのゲーム

が上がり関心が高まってきたことに、キッズ委員会としても大変喜ばしいことと考えております。今後も、子供たちが楽しめるような場を提供していきたいと思っております。

## 巡回指導をしています

キッズ委員会では、幼稚園や保育園、小学校1、2年生などを対象にキッズインストラクターやキッズリーダーによる巡回指導を行っています。現在のところ約20回の巡回指導を行ってきました。おにごっこやボールを使った運動、ゴールに向かってのシュートやゲームなど様々なメニューを用意して子供たちとかわっています。どの園からも好評で同じ所から数回の依頼も受けられるまでになってきています。巡回指導を通して、体を動かすことが大好きな子供たちを育て、今後もサッカーをやりたいという気持ちになってほしいと願っています。今後も、このプログラムを通して、



U-8巡回指導から（ボールとり鬼ごっこ）

この年代の子供たちにあった指導を紹介していきたいと思っております。

しかしながら、まだまだ巡回指導については認知度が低く依頼が思うように増えていかないのが現状です。この紙面を通して興味を持った団体がありましたら幸いです。



楽しくゲームをしている様子

## 日本クラブユースサッカー選手権大会 (U-15) 栃木県大会

【総評 技術委員 楠瀬直木】

今年度のクラブユース選手権はAS栃木の優勝で幕を閉じました。AS栃木は決勝戦で栃木SCを3-1と退け、見事な初優勝でした。2次予選から準決勝まで順調なチーム作りで尻上がりにチーム力を上げてゆき、準決勝では攻守ともに完璧な戦いぶりを見せました。決勝戦に及んでも、「勝利」への気持ちは常に栃木SCを上回っており、その気迫とチームワークは関東大会突破も夢ではないと思わせてくれました。又、栃木SCも決勝戦こそ気迫に押され苦杯を舐めましたが、個々の能力はチーム創設以来、最強ではないと感じさせます。

「勝ちたい」「勝つんだ」と言う意識を高く保ち、是非、関東大会突破を果たしてもらいたいと思います。

全体的に見ると、上位2チームと他チームの「差」が少しあるように思われました。

個々の技術、体力、スキルなど気持ちだけで補えるものとしっかりとしたトレーニングからでないと思えないものがあります。試合や学校行事に追われ、確実なM-T-Mが行われていないようにも見られました。M(マッチ)-T(トレーニング)-M(マッチ)試合をし、分析、反省、改善し、また試合に臨む、その繰り返しでチーム、個々を成長させて行きます。AS栃木は正に試合ごとに成長してゆき、結果を出しました。他のチームが行っていない訳では無いのですが、優勝が偶然ではない「裏づけ」がAS栃木にはあったのだと思います。



優勝 AS栃木ボン・ディ・ボラ大田原

第1代表

AS 栃木ボン・ディ・ボラ大田原  
波之壁 博 監督

関東大会初戦の相手はFC湘南JYでした。初出場というプレッシャーから動きも硬く先制点を奪われ悪い流れでしたが、1点を取り返し前半を折り返すと、硬さがとれたのか後半は4点を取り5-1で関東大会初勝利を挙げる事ができました。

2回戦は横河武蔵野FCJYに1-2で負けてしまいました。後半に2点を奪われ、終了間際に1点を取り返しましたが、力が一歩及びませんでした。

この大会で感じたことは、テクニックは通用しましたが、更にこの上を目指すためには、判断のスピードを今以上に上げていくことが必要だと感じました。



準優勝 栃木SCジュニアユース

第2代表 栃木SCジュニアユース

森川 智浩 監督

関東大会で東京ヴェルディに0-5と大敗をし、かなり悔しい思いをしましたが、この時期にチーム力・個人戦術と技術・戦う姿勢の差を実感できたのは良かったと思います。

最も強く差を感じたのは、1対1の強さ・厳しさとパス・コントロールの質でした。

オフの時のポジショニング、球際の強さや身体の使い方、ボールを奪うという強い意識、パスとファーストタッチの精度。

全体的なレベルで比較すると、どれを取っても劣っていたと思います。

しかしながら、県予選から含め、選手たちの可能性も十分に感じる事ができた大会だったので、今後は課題を克服しながら、個々の特徴を生かしたサッカーを目指し、高円宮杯全国大会出場を目標に頑張りたいと思います。

## 高円杯全日本サッカー選手権大会 (U-15) 栃木県大会

【総評 技術委員 楠瀬直木】

本年度の高円杯は優勝栃木SC、準優勝FC栃木、3位今市アルシオーネとなりました。FC栃木、今市アルシオーネは関東大会初出場となり活躍を期待しています。MF床井選手を中心とする栃木SCは破壊力があり、全国大会出場も期待されます。

FC栃木はクラブユース選手権の覇者AS栃木を相手に堅実なサッカーをやり続け、相手に何もさせないゲーム運びでの勝利でしたので、関東大会でも恐れず自分たちの戦い方が出来れば必ず勝機はあると思います。

又、今市アルシオーネはVERDY小山をPK戦の上勝利し、うれしい初出場でした。全員守備、全員攻撃でチーム一丸となり声を出し続けて戦う姿勢は忘れかけていた「戦いの原点」を彷彿させるものでした。決して諦めず、最後まで走り続けることがいかに大切か、を証明した戦いぶりでした。惜しくも、決定戦で敗退したVERDY小山、チェルト、AS栃木の3チームも決してひげをとらず、3チームともタレントの揃ったチームでした。



第一代表 栃木SC

【栃木SC 森川智浩 監督】

「クラブユース選手権のリベンジを！」という目標で臨んだ大会で優勝できたことは大変嬉しく思います。

予選から通して負けなかった選手たちの勝負強さと素晴らしいパフォーマンス、さらには協力してくれたスタッフと保護者の方たちのサポートには、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



第二代表 FC栃木

【FC栃木 多田徹朗 監督】

ジュニアユース年代の最後の大会、そして、3年間の集大成の大会である高円杯。そのような大会で、県予選を勝ち上がり関東大会に駒を進めたことは選手たちにとって誇らしいことだと思います。3年間、「判断のできる選手の育成」をテーマに活動を行なってきましたが、様々なチームとゲームをし、様々な指導者とコミュニケーションをとることで、関東大会の出場権が得られたと感謝しています。



第三代表 今市FCアルシオーネ

【今市FCアルシオーネU-15 斉藤晃治 監督】

クラブ設立8年目にして初めて栃木県の壁を突破。関東大会出場はとても嬉しいことである。選手を支えてくださっている地域の人々や保護者の皆さま、OBやスタッフなど、今市FCアルシオーネにかかわるすべての人々に感謝したい。対戦相手は、FC東京深川U-15に決定した。この大会で全国優勝の経験もあるプロチームの下部組織集団に、県トレゼロの「勇敢な雑草軍団」である我がチームが、「Brave heart」で果敢に挑みたい。

## 連盟に専属トレーナー誕生

国内フットサル界には、都道府県対抗で争う「全国選抜フットサル大会」があり、本県リーグ選抜チームも全国大会出場を目指し大会に臨んでいます。連盟発足4年目を迎えた今年、その選抜チームに水野将太氏(29)という心強いトレーナーが加わりました。選抜チームを支える水野氏に、帯同ファーストシーズンを振り返ってもらいました。

私は昨シーズンまで選手としてコートに立っていましたが、理学療法士という職業柄、自分の知識・技術の向上のため、また選手の怪我予防啓蒙のため、トレーナー活動をしていきたいと考えるようになりました。



所属チームの中で、少しずつトレーナー活動をしていた中で選抜チームへの帯同のお話をいただき、今年5月に行われた第24回全国選抜大会関東大会(会場:茨城県水海道市)に帯同させていただきました。

大会では強豪都県チームの帯同トレーナーを目の当たりにし、自らの力不足を実感する一方で、たくさんの刺激を受け、とてもよい勉強になりました。

今後はさらに勉強し、経験を重ねていき、選抜チームでも選手に対してよりよいケアができるよう、努力していきたいと思っています。

【プロフィール】みずの・しょうた 2004年の第2回栃木県フットサルリーグから昨シーズンまで選手として活躍。02年に理学療法士免許取得。鹿沼整形外科勤務。栃木県理学療法士協会会員。岩手県出身。

## 女子関東大会が地元初開催

Amaralo/峰FCが全国へ

女子フットサル最高峰の大会とされる「第5回全日本女子フットサル選手権大会」の関東大会が、9月27、28の両日、宇都宮市の清原体育館で行われました。本県からはAmaralo/峰FC(宇都宮市)、宇都宮中央女子高が会場、Amaralo/峰FCが見事に3位入賞を果たし、全国大会出場を決めました。

関東大会が各都県持ち回りとなり5年目。女子部門の関東大会としては、同大会が初めての栃木開催の公式戦として行われました。

本県代表は、県予選を突破したAmaralo/峰FCと宇都宮中央女子高が関東の強豪に挑みました。

女子フットサル日本代表・宮川亮子選手を擁し、3年ぶり2度目の全国大会出場を狙うAmaralo/峰FCは予選リーグを2勝で危なげなく突破。準決勝でFUN Ladies(東京都第1代表)に敗れるものの、3位決定戦でうー魚(東京都第2代表)をPK戦の末に下し、

全国大会出場を決めました。一方、日ごろはサッカーを主戦場とする宇都宮中央女子高は、予選リーグで1分け1敗で惜しくも予選突破はなりませんでした。

その後、Amaralo/峰FCは、11月1-3日の3日間、静岡県で行われた本大会へと出場しました。予選リーグ1勝2敗で決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、全国の強豪チーム相手に堂々の戦いを展開しました。(理事長 桜井誠)



▲全国大会出場を決めたAmaralo/峰FC

## ビーチサッカーで熱戦展開

2年前から始まった「全国ビーチサッカー大会」の予選に、今年、本県から初めて2チームが出場しました。県内では予選開催が不可能なため、栃木県予選は茨城県予選と共催の形で実施。7月20日に茨城県鹿嶋市・平井海岸で行われた予選へ、栃木県フットサルリーグに所属するAC栃木(宇都宮市)、ブラジニア(茂木町)が出場しました。

ビーチサッカーはテレビなどで機会があるたびに観ていました。今回、栃木県予選が行われるとの知らせを受け、メンバーたちの「やってみよう」という声に応える形で大会へとエントリーしました。

予選リーグでは茨城県の2チームと対戦し、1分け1敗でした。2試合とも先制点を奪いましたが、不安定な砂地の上で“つなぐフットサル”をやってしまい、後半、バテてしまい同点に追いつかれたり、逆転を喫したりしてしまいました。ビーチサッカーはサッカーやフットサルに比べ、思うようにプレーができない難しさがありますが、反対にそれが魅力でもあります。次回大会もぜひ出場し、最終的には全国大会まで行けるよう頑張りたいです。(AC栃木代表 築嶋正真)



▲ビーチサッカー栃木県予選に出場した2チーム

## 盛り上がる高校女子サッカー

県内の高校女子サッカーが盛り上がりを見せています。昨シーズン、栃木県高校女子サッカーリーグが発足、今シーズンも、11月3日の最終節まで11チームが熱戦を展開しました。結果は文星女子高が10戦全勝で優勝、2位に小山城南高、3位に宇都宮中央女子高が食い込みました。

2回目を迎えた今シーズンは、昨シーズンと同じ11チームの参加で行われました。新規加盟の益子芳星高校は、部員不足のため残念ながら不参加となりました。来年度の初参加を期待しています。今年は、天候不順による延期などがなく、試合はすべて予定通りに実施できました。

成績は、文星女子高が10戦全勝、無失点という圧倒的な成績で優勝しました。昨シーズンに比べると、上位チームと下位チームの成績に大きな差がつかしました。今後もこのリーグを継続していくことで、栃木県高校女子サッカーチームの全体的なレベルアップを図っていければ、と思っています。

最終成績は以下の通りです。丸囲み数字は順位、( )内は勝ち点です。(同一勝ち点は得失点差)

- ①文星女子高(30) ②小山城南高(24) ③宇都宮中央女子高(24) ④宇短大附属高(17) ⑤作新学院高(17) ⑥宇都宮女子高(15) ⑦栃木翔南高(13) ⑧白鷗足利高(4) ⑨栃木女子高(4) ⑩大田原女子高(3) ⑪佐野女子高(3)

(栃木女子高 石崎利男)



▲熱戦を展開する選手たち

## 4種登録女子選手がトレセン参加

県内の少女世代(12歳以下)の女子登録選手は、毎年200人を超えますが、その大半は4種のチーム所属で、女子のチーム所属の選手は全体の1割ほどです。近年、

4種登録の選手と、女子登録の選手とで合同トレセンを実施してきましたが、今年から4種登録の女子選手も、女子連盟が行うトレセンで活動することになりました。

女子連盟がかかわるU-12のトレセンは5年前からスタートしました。4種と連動しながら活動を続け、今シーズン、初めて女子トレセンの中での活動が始まりました。指導は女子連盟の技術委員があたっています。

このトレセンは、強化よりもU-12世代の底辺の拡大を念頭に置いています。参加は自由で、広く門戸を開いています。月1回のトレセンには、通常、小学4年生から6年生まで50人近い選手たちが県内から集まり、ボールを追っています。

またトレセンの活動日は、U-15世代のトレセンなどとも時間、場所を重ね、参加者にU-15世代の活動も間近で見て、知ってもらおうように努めています。U-12世代の活動が、U-15世代の競技人口拡大につながっていくことも、期待しています。

本県のU-12世代は、他県の現状と比較すると、遅れをとっています。本県の少女チームは1チームのみですが、チーム数が少ないといわれる北関東の他県ですら、複数チームが年間を通じて活動しています。そのような現状を、このトレセンが解消するきっかけになればとも思っています。

将来的には、このトレセンを「強化」と「育成」を分ける必要性も感じてはいますが、当面は現状を維持し、U-12世代の競技人口拡大につなげていきたいと思っています。

(技術委員・トレセンチーフ 染川哲範)

## フットサル事業を移管

これまで女子サッカー連盟が主催、主管してきましたフットサル事業が、今シーズンから、フットサル連盟へと移管されました。

過去3回を数える「栃木県女子フットサルリーグ」の主催と、「全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選」の主管が、今シーズンからフットサル連盟に移管されました。リニューアル1年目の今シーズンは、栃木県女子リーグで宇都宮チェルトFCレディースが、全日本女子選手権栃木県予選でAmaralo/峰FCが、それぞれ栄冠を勝ち取りました。

また今シーズンより、「関東女子フットサルリーグ・プレ大会」、都道府県対抗で争われる「全国女子フットサル選抜大会」などもスタートしますが、これらの大会も、フットサル連盟主導で事業を行っていく予定です。

## RESPECT THE GAME

審判委員会 委員長 村上 修

私が、前大栗克元委員長からバトンを受けて早くも12年目になりました。この間に、時代は20世紀から21世紀になり、日本のサッカーは、日韓W杯(2002年)、アテネ五輪(2004年)、ドイツW杯(2006年)、北京五輪(2008年)に出場し、我々に多くの喜びと感動と勇気を与えてくれました。また、Jリーグが定着する中で、2007年よりフットサルのFリーグもスタートし、一時低迷を懸念された女子サッカーも「なでしこジャパン」の名のもとに活躍が目立ってきました。「ビーチサッカー」も、身近な話題にとりあげられてきました。

審判関係では、大変な作業を通しての画期的な審判員総合登録制の導入、実施から、現在のwebによる登録制へ移行し、資質の高い審判員の育成を目指すフェリーカレッジの開校、プロ審判員SRの誕生、今年度から、地域協会と日本協会による地域1級審判員認定制度が開始されました。特に、W杯日本開催後は、JFAハウスが発信地となり、様々な改革プランが打ち出されました。'05年の「DREAM～夢があるから強くなる～」を合い言葉に高らかに「JFA2005年宣言」を行い、理念、ビジョン、約束を明確にし、共有することによって「Jリーグ100年構想」の実現に向けて少しずつ歩み出しています。

県協会は全国でも比較的早く社団法人化し、法人格をもった組織として本県サッカーの普及、発展に取り組んでいます。県協会の組織の一部である審判委員会では、フットサルを含めて5,000人を超える登録審判員の更新講習会、3・4級取得講習会、県内外各種大会の審判員の派遣、各種審判研修会等の事業を実施し、審判員の育成、強化、派遣等を担当しています。

少子高齢化が益々進展する中で、リーグ戦文化の創出により、年々試合数が増加し、試合レベルも高くなってきています。全国的にみても、人口に比べて審判員の数は多い県なのですが、ここ数年来、審判委員会としてクリアしなければならない大きな課題は、「多くの上級審判員の育成」である。具体的に次の4つである。①1級審判員のSR吉田氏（現在は、東京都に移籍中）、国際主審の高山氏、国際副審の手塚氏・相楽氏に続く1級審判員の誕生 ②現在50名程度いる2級

審判員の増加 ③昨年まで唯一の女子の2級審判員であった平山氏が神奈川県に移籍し、現在2級審判員がないため、女子の2級審判員の誕生 ④1・2級フットサル審判員の育成 これらの課題解決のために、ユースを対象にした取得講習会等を開催したりして取り組んでいます。選手の育成、強化と同様に、審判員も継続的に地道に取り組んで行くことが重要だと思います。

**特に、この課題解決のために400名を超える3級登録審判員に声を大にしてお願いがあります。是非とも、これからの本県の審判員を担う3級登録審判員の皆さん、2級、1級の上級審判員を目指して勇気をもって立ち上がって下さい。現在は、審判員の級別定年制は撤廃になりました。これからの本県の審判活動は、多くの3級審判員の皆様が上級審判員を目指すか否かにかかっています。今後、審判活動をやってみたい方は遠慮なく県協会までお知らせ下さい。**

タイトルの「RESPECT THE GAME」は私の最も好きなアーセン・ベンゲルの言葉である。「サッカーは一人ではできないのだから、全てのものに感謝しなければならない」という意味である。筋書きのないスポーツドラマである「ゲーム」は、たくさんの人々や多くの用具、施設によって成り立っています。「ゲーム」に親しみ楽しめるのは、たくさんの人々や用具、施設に支えられているからです。だから、これらのものに心から感謝しなければならないということです。我々は、このことをもう一度強く再認識することが不可決と思います。スポーツマンシップの神髄である、フェアプレー、メンバーシップ、パートナーシップは「サッカーは一人ではできないのだから全てのものに感謝する」が原点であると思います。世界で最も愛されている頭脳的・集団的・格闘技サッカーは、世界中の人々に喜び・感動・勇気を与えてくれます。「サッカーは子供を大人にし、大人を紳士にする」格言の如く、県内審判員の皆さん、上級審判員を目指して積極的に立ち上がり、県内外で大きく活躍して下さい。

審判の更新講習会も締切り間近になっております。Eラーニングによる更新も随時受付けておりますので日程等、詳しい内容はサッカー協会HPをご覧ください。

## 県内高校初 矢板中央高校に人工芝 サッカー場が完成

矢板中央高校 監督 高橋健二

平成20年10月19日（日）、矢板中央高校に人工芝のサッカー場が完成した。同日、多くの関係者のご列席のもと竣工式が実施された。また、流通経済大学柏高校（千葉県）を招き記念試合を開催。記念試合は、矢板中央高校が流通経済大学柏高校に2対1で勝利した。



流通経済大柏高校との記念試合



竣工式に参加した方々と記念撮影



広々としたサッカー場

## 2008栃木県ユースサッカーU-18リーグ 1部リーグ結果

	佐野日大	國學院栃木	宇都宮白楊	栃木SCユース	真岡	小山南	白鷗足利	宇都宮東	勝	分	負	勝点	得失点	得点	失点	順位
佐野日大	△ 1-1	○ 3-2	○ 4-0	○ 1-0	○ 4-0	○ 5-1	○ 6-0	○ 6-0	6	1	0	19	20	24	4	1
國學院栃木	△ 1-1	×	×	×	×	△ 2-2	○ 4-0	○ 4-0	1	2	4	5	-7	8	15	6
宇都宮白楊	×	○ 2-1	○ 2-1	○ 2-1	×	○ 2-1	○ 2-0	○ 6-0	5	0	2	15	9	16	7	3
栃木SCユース	×	○ 2-0	×	×	×	○ 5-0	○ 6-3	○ 5-0	4	0	3	12	9	20	11	4
真岡	×	○ 7-0	○ 1-0	○ 2-1	○ 3-0	○ 4-1	○ 7-1	○ 7-1	6	0	1	18	20	24	4	2
小山南	×	○ 1-0	×	×	×	△ 0-0	○ 4-0	○ 4-0	2	1	4	7	-8	6	14	5
白鷗足利	×	△ 2-2	×	×	×	△ 0-0	○ 1-0	○ 1-0	1	2	4	5	-11	8	19	7
宇都宮東	×	×	×	×	×	×	×	×	0	0	7	0	-32	1	33	8

佐野日本大学高等学校が、JFAプリンスリーグ2009関東2部リーグに参戦決定!!

# 2008栃木県ユースサッカーU-18リーグ 2部リーグ結果

## Aグループ

	大田原	青藍泰斗	益子芳星	文星芸大 附 属	栃木工業	栃木翔南	栃 木	那須拓陽	上三川	勝	分	負	勝点	得失点	得点	失点	順位
大田原		○ 1	△ 1	× 3	○ 0	○ 0	○ 0	○ 0	△ 1	5	2	1	17	16	22	6	3
青藍泰斗	× 6		× 9	× 4	× 5	○ 2	○ 2	○ 1	× 2	2	0	6	6	-12	19	31	7
益子芳星	△ 1	○ 1		○ 1	○ 2	○ 0	△ 1	○ 1	○ 0	6	2	0	20	24	31	7	1
文星芸大 附 属	○ 1	○ 2	× 2		△ 1	○ 0	○ 2	× 2	○ 0	4	1	3	13	7	17	10	4
栃木工業	○ 2	○ 0	× 4	△ 1		○ 0	× 2	○ 0	× 2	3	1	4	10	12	23	11	6
栃木翔南	○ 7	× 9	○ 3	○ 6	○ 5		○ 4	△ 2	○ 5	0	1	7	1	-37	4	41	9
栃 木	○ 1	○ 0	△ 1	○ 0	× 1	○ 0		○ 0	○ 1	6	1	1	19	13	17	4	2
那須拓陽	× 3	× 5	× 6	○ 1	○ 8	△ 2	○ 4		× 7	1	1	6	4	-30	6	36	8
上三川	△ 1	○ 1	○ 5	○ 1	○ 1	○ 0	× 2	○ 0		4	1	3	13	7	18	11	5

## Bグループ

	作 新	足 利	小 山	宇 都 宮 清 陵	佐 野	那 須	黒 羽	今 市	高 根 沢	勝	分	負	勝点	得失点	得点	失点	順位
作 新		× 1	△ 2	× 5	○ 1	○ 2	○ 0	○ 2	× 3	3	1	4	10	1	17	16	7
足 利	○ 0		○ 3	○ 2	○ 0	○ 0	○ 1	○ 8	○ 0	6	0	2	18	1	15	14	3
小 山	△ 2	○ 0		○ 2	○ 0	○ 0	○ 0	× 1	○ 1	6	1	1	19	14	20	6	2
宇 都 宮 清 陵	○ 1	× 4	× 3		○ 0	× 3	○ 0	× 2	△ 1	3	1	4	10	5	19	14	6
佐 野	× 2	○ 5	○ 2	○ 4		○ 6	○ 1	○ 2	○ 2	1	0	7	3	-20	4	24	8
那 須	× 4	○ 2	○ 5	○ 2	○ 0		○ 2	△ 2	○ 1	4	1	3	13	4	22	18	4
黒 羽	○ 6	× 2	○ 3	○ 2	× 3	× 5		× 5	× 3	0	0	8	0	-23	6	29	9
今 市	○ 0	○ 0	○ 0	○ 1	○ 0	△ 2	○ 1		△ 2	6	2	0	20	18	24	6	1
高 根 沢	○ 2	× 1	× 2	△ 1	○ 0	× 4	○ 1	△ 2		3	2	3	11	0	13	13	5

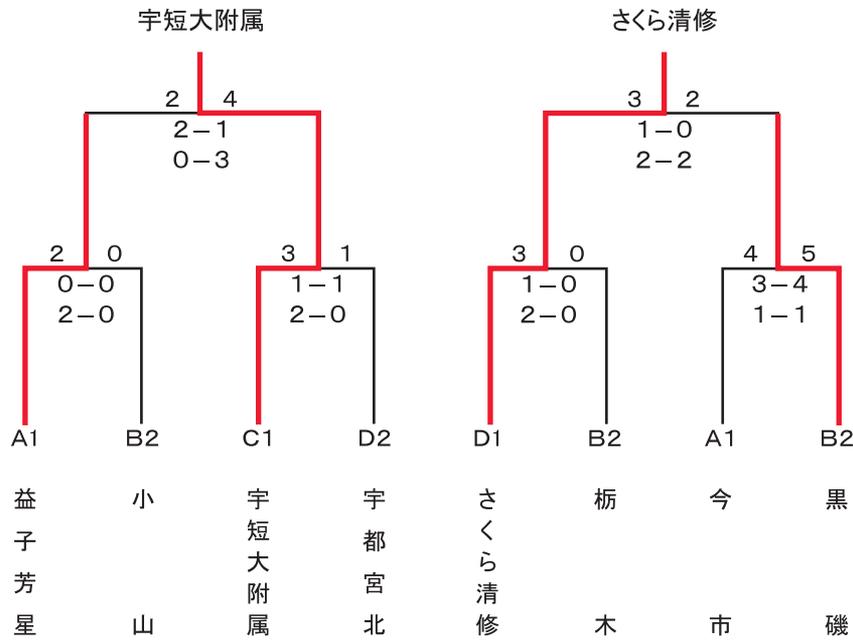
## Cグループ

	鹿 沼	今 市 アルシオーネ	鹿 沼 東	那須清峰	宇 短 大 附 属	黒 磯	宇都宮南	足利工業	矢 板	勝	分	負	勝点	得失点	得点	失点	順位
鹿 沼		× 5	× 4	× 5	× 4	× 4	○ 0	○ 0	× 3	2	0	6	6	-10	15	25	7
今 市 アルシオーネ	○ 0		△ 0	○ 0	○ 5	○ 1	○ 1	○ 2	○ 1	5	1	2	16	14	24	10	3
鹿 沼 東	△ 2	○ 0		△ 0	× 6	× 2	○ 0	○ 0	○ 0	4	2	2	14	3	13	10	4
那須清峰	○ 0	○ 1	○ 0		○ 4	○ 3	○ 1	△ 1	○ 0	2	2	4	8	-2	8	10	6
宇 短 大 附 属	○ 1	○ 0	○ 2	○ 0		○ 2	○ 7	○ 0	○ 0	8	0	0	24	38	44	6	1
黒 磯	○ 2	× 2	○ 1	○ 0	× 3		○ 0	○ 1	○ 3	6	0	2	18	18	30	12	2
宇都宮南	○ 5	× 4	○ 1	○ 0	× 7	○ 8		○ 1	× 5	2	0	6	6	-23	8	31	8
足利工業	○ 3	× 12	○ 4	△ 1	○ 7	× 6	× 4		○ 3	0	1	7	1	-35	5	40	9
矢 板	○ 2	○ 0	○ 1	○ 2	○ 8	× 4	○ 1	○ 0		4	0	4	12	-3	15	18	5

## Dグループ

	小 山 西	さ くら 修	烏 山	宇 都 宮	宇 都 宮 工 業	宇都宮北	佐野松陽	茂 木	今市工業	勝	分	負	勝点	得失点	得点	失点	順位
小 山 西		× 1	○ 1	△ 2	○ 2	△ 1	× 4	○ 1	○ 1	4	2	2	14	10	23	13	3
さ くら 修	○ 0		△ 1	○ 0	○ 0	△ 1	○ 0	○ 0	○ 0	6	2	0	20	17	19	2	1
烏 山	× 4	△ 1		○ 0	× 3	○ 1	△ 2	○ 1	× 2	3	2	3	11	1	15	14	5
宇 都 宮	△ 2	○ 1	○ 1		× 4	○ 1	× 1	○ 1	○ 1	3	1	4	10	2	14	12	6
宇 都 宮 工 業	× 5	× 3	○ 1	○ 3		× 2	× 4	○ 1	○ 3	3	0	5	9	-8	14	22	8
宇都宮北	△ 1	△ 1	× 5	○ 0	○ 1		○ 0	○ 1	○ 0	5	2	1	17	4	13	9	2
佐野松陽	○ 2	○ 4	△ 2	× 2	○ 1	○ 3		○ 1	△ 1	3	2	3	11	1	17	16	4
茂 木	× 4	× 4	× 3	× 4	× 3	× 3	× 5		× 2	0	0	8	0	-21	7	28	9
今市工業	× 5	○ 4	○ 1	× 3	○ 0	○ 1	○ 1	○ 1		3	1	4	10	-6	10	16	7

代表決定トーナメント



宇都宮短期大学附属高等学校と栃木県立さくら清修高等学校の2校が、2009栃木県ユースサッカーU-18リーグ1部リーグに参戦決定!!

矢板中央高校、1部に昇格

JFAプリンスリーグ2008関東2部リーグで、矢板中央高校が活躍。関東の強豪チームを相手に健闘し、次年度の1部リーグ昇格を果たした。

2部 Bグループ

チーム名	①	②	③	④	⑤	⑥	勝点	得点	勝点	得失点差	順位
① 鹿島学園高校		○ 3-1	△ 1-1	● 0-1	△ 2-2	○ 1-0	8	7	5	2	3
② 矢板中央高校	● 1-3		△ 1-1	△ 1-1	○ 4-3	○ 3-0	8	10	8	2	2
③ 前橋商業高校	△ 1-1	△ 1-1		○ 1-0	● 1-2	● 0-1	5	4	5	-1	5
④ 正智深谷高校	○ 1-0	△ 1-1	● 0-1		● 1-4	○ 3-1	7	6	7	-1	4
⑤ ジェフユナイテッド市原・千葉ユース	△ 2-2	● 3-4	○ 2-1	○ 4-1		○ 3-0	10	14	8	6	1
⑥ 成立学園高校	● 0-1	● 0-3	○ 1-0	● 1-3	● 0-3		3	2	10	-8	6

順位決定戦

3位決定戦 矢板中央高校 3-1 習志野高校 【Aグループ2位】 (千葉県)

## 第32回 全日本少年サッカー大会 栃木県大会

平成20年5月31日、6月1・8・14日の4日間にわたって大会が開催された。各地区代表64チームが参加し、全日本の本大会を目指して、熱戦が繰り広げられた。

優勝したのは、ともぞうサッカークラブで、決勝戦では、栃木SCジュニアを延長戦の末2-1で振り切り、見事全国大会の切符を手にした。

＜大会成績＞

- 優勝 ともぞうサッカークラブ
- 準優勝 栃木SCジュニア
- 3位 FCスピリット 野木SSSブレイズ
- フェアプレー賞 ともぞうサッカークラブ
- 敢闘賞 SAKURA FOOTBALL CLUB Jr
- 努力賞 OMFC
- グッドマナー賞 ウーヴァSC・Jr

※試合結果の詳細は栃木県少年サッカー連盟公式ページでご覧いただけます。アドレスは<http://www.tjfa.jp/>です。

### 第32回全日本少年サッカー大会

- 栃木県代表 ともぞうサッカークラブ
- Hグループ 1勝4敗 5位 (1次リーグ)

### 第32回関東少年サッカー大会

- 栃木県代表
  - ・栃木SCジュニア 1位トーナメント1回戦
  - ・FCスピリット 1位トーナメント1回戦
  - ・野木SSSブレイズ 予選リーグ2敗

## 関東M-T-M交流戦 IN 栃木

平成20年7月25日から27日の3日間、矢板市サッカー場において交流戦が開催された。この交流戦は、「選手にとってよりよい強化・普及の目的と手段を真摯に追求する機会とすること、指導者・選手同士のコミュニケーションを深めること」をテーマとして開催された。栃木県を始め、兵庫県、神奈川県、千葉県、群馬県、青森県の代表9チームが参加した。試合

は神奈川県TCが優勝を納めたが、個人技や連係プレーなど素晴らしいプレーが随所に見られ、選手を育成する指導者に、是非見てほしい交流戦であった。各チームでの練習に一生懸命に取り組んでいる指導者が多いと思うが、よい試合を見ることで、さらにチームへの指導に生かしていけるものと思う。

## 第30回利根コカ・コーラ杯争奪 東関東少年サッカー大会

平成20年8月23・24日に、表記の大会が那須スポーツパークにて開催された。今大会は30回の記念大会ということで、功労者の表彰やトム・バイヤーのサッカークリニックなどが行われた。



＜試合結果＞

- 4年生の部
  - 下都賀トレセン 予選リーグ2敗
  - 両毛トレセン 予選リーグ1勝1敗
- 5年生[ア]の部
  - 宇河トレセン 予選リーグ2敗
  - 塩谷トレセン 予選リーグ2勝
  - 決勝 0-5 柏イーグルス
- 5年生[イ]の部
  - 芳賀トレセン 予選リーグ1勝1敗
  - 上都賀トレセン 予選リーグ2勝
  - 決勝 1-3 柏イーグルス
- 6年生の部
  - 北那須トレセン 予選リーグ1勝1敗
  - 南那須トレセン 予選リーグ2敗
- 功労者表彰(本県関係者)
  - 石川 茂治氏 (前少年連盟会長)
  - 大手 英之氏 (前少年連盟理事長)

## 第37回 栃木県少年サッカー選手権大会

平成20年10月11・19・26・11月3日の4日間にわたって、栃木県グリーンスタジアムをメイン会場として大会が開催された。本年度は、選手権の部177チーム、ジュニアの部に地区予選を突破した64チームが参加した。

1回戦より白熱した好ゲームが展開されたが、JFCファイターズが177チームの頂点に立った。



優勝したJFCファイターズ

### <大会成績>

- 優勝 JFCファイターズ
- 準優勝 ウーヴァSC・Jr
- 3位 宇都宮チェルトFC U-12  
ク 今市第三カルナヴァル
- フェアプレー賞 真岡西SC
- 敢闘賞 野木SSSブレイズ
- 努力賞 KT・ユニオン  
ク FC西那須21アストロ



野原グランディス

AS栃木ジュニア

### <ジュニアの部>

- ・ヤシオツツジ・トーナメント  
優勝 野原グランディス
- ・ニホンカモシカ・トーナメント  
優勝 AS栃木ジュニア

※試合結果の詳細は栃木県少年サッカー連盟公式ページでご覧いただけます。アドレスは<http://www.tjfa.jp/>です。

## バーモントカップ第18回 全日本フットサル大会栃木県大会

平成20年11月15・16日に、雀宮体育館を会場として、フットサル大会が開催された。

本大会には、各地区の予選を勝ち上がった32チームが参加した。

決勝トーナメントは、全7試合中4試合がPK戦となる接戦を展開した。そして、その接戦をものにしたパルサッカークラブが見事優勝を飾り全日本少年フットサル大会の出場権を手にした。



優勝したパルサッカークラブ

## 第26回 栃木県少年サッカー海外遠征

平成20年8月17日から20日の3泊4日にて、韓国ソウル市への海外遠征を行った。

本年度は選手47名、役員9名が参加し、韓国の選手たちと試合を通して交流を図ってきた。

また、選手たちは海外の文化にも触れ有意義な時間を過ごすことができた。

### <試合結果>

- ・栃木県選抜A 3勝1敗
- ・栃木県選抜B 2勝1敗1分け
- ・栃木県選抜C 3勝



## クラブカップ優勝と関東大会を経験して

鹿沼フットボールクラブ  
監督 大門 勇人

私達、鹿沼FCは創部27年目にして初めて県のタイトルを獲得事ができました。チームに携わっていた方々には、本当に感謝しています。有難うございました。

今年からチームの監督を任せていただく事になった私は、まずチームの立て直しから始めました。私達は、昨年3部決勝大会にPK戦の末に敗れました。今年はチームに何人残ってくれるか不安の中チーム作りが始まり、蓋をあけてみると、ほとんどの選手が残ってくれました。悔しい思いを分かち合ったチームは一戦一戦、力をつけ昨年よりも気持ちが強くなり、負けないチームになりました。その中でクラブ杯決勝、相手は昨年決勝大会で敗れた県南FC、チーム全員の思いが一つになりリベンジに成功し優勝する事ができたと思います。

9月に行われた関東大会では、とても良い経験をした反面、チーム、個人共に経験不足を肌で感じる事ができました。あのような舞台で普段の力を出す事の難しさ、勝つという大変さ県外にでて初めて分かりました。この経験を糧に私達は、ワンランク上のチームを目指してがんばりたいと思います。



## 第7回全国シニア（50歳以上）サッカー大会関東地区予選会

第7回全国シニア（50歳以上）サッカー大会関東地区予選会が4月20日にひたちなか市で行われた。栃木県代

表として下都賀シニアサッカークラブが出場したが1回戦で千葉四十雀サッカークラブに0-3で敗れた。ここ何年か1回戦が突破できずにいる。来年こそは、全国大会出場を果たしたいと思っている。

## 日本マスターズ2008サッカー競技（0-40）関東地区予選会

日本マスターズ2008サッカー競技（0-40）関東地区予選会が6月15日にひたちなか市で行われた。栃木県代表として栃木教員マスターズが出場したが1回戦で埼玉代表のNTTシニアに0-2で敗れた。ここ何年か1回戦が突破できずにいる。来年こそは、全国大会出場を果たすチームが出ることを期待したい。

## スポレク滋賀2008



試合前の集合写真（石川シニア50と）

全国スポーツレクリエーション大会が10月18日～21日の期間に滋賀県で開催された。栃木県代表として下都賀シニアSC（0-50）が参加した。会場は守山市の野洲川歴史公園サッカー場（人工芝2面、天然芝1面）で行われた。この年代での4日間もサッカーのために仕事をあけるのは大変である。チームは他のチームの協力を得て参加した。

試合1日目は、石川シニア50と4-0で勝利。2日目は韓国と4-1で勝利。3日目は沖縄シニアFCに4-0と勝利し大会は全勝してブロック第1位であった。

試合は、いずれにしろ各県と交流をしたり滋賀県の観光をしてきてよい大会であった。

## シニア委員会から

シニア委員会では、各年代等のサッカーを、カテゴリーとして40代、50代、60代と各年代での大会を行っている。県の大会及びリーグ戦も行っています。なお、予選を勝ち上げれば各年代での全国大会・関東大会もあります。シニア委員会として40歳以上のチームの登録参加を求めています。シニア年代のチームの参加を待っています。

(シニア委員会委員長 福田 治)

## ～朝ごはんが作戦会議になる日～ 「足利市ファミリーフットサルレポート」

(財)日本サッカー協会  
PHQ 清水美香

足利市では毎年、体育の日に市民スポーツフェスティバルが開催され、市民の恒例行事となっている。足利市総合陸上競技場の周辺には体育館、武道館、野球場が併設され、ペタンク・バドミントン、卓球等、様々なスポーツを楽しんでいた。

市民スポーツフェスティバルは今年28回目を迎えるが、ファミリーフットサルが種目の一つとなったのは4年前から。ファミリーフットサルに種目変更する前は、ミニサッカー大会として大人の部・子供の部に分けて実施されていた。参加チームも今年から33チーム328人へと拡大、フットサルの人気うかがえる。



ファミリーフットサルが地域に定着するには、市町村サッカー協会の協力・連携が重要である。今回のフェスティバルは、栃木県協会に登録する社会人チームや少年団がその家族にも参加を促したことによって参加数が増え、イベントは大盛況となった。

試合時間は10分で、各チームが最低5試合プレーできる。また、順位決定も表彰もないことから参加者は気軽にフットサルを楽しんでおり、すがすがしい笑顔が随所に見られた。日ごろの運動不足が原因か、お母さんの元気なプレー姿は午後になるとその勢いが弱まり、試合中の交代も頻繁に。その一方で、子供たちは5試合では物足りず、休憩時間でもボールを離さない。スポーツを通じて親子のコミュニケーションが深まるので、相乗効果になると足利市サッカー協会の檜山達夫会長も感じている。また、市民に芝生のグラウンドが開放されるのも大きな喜びだ。



檜山会長は、足利市レクリエーション協会の会長も務めており、レクリエーションスポーツの普及にも尽力している。気軽に娯楽として楽しめるファミリーフットサルの導入にはすぐに理解を示して頂いた。同氏は、市民が気軽に集まれる拠点を作りながら、ファミリーフットサルがレクリエーションスポーツの一つとして生活に定着することを目指し、今後は、中学生や女子高生の市民イベントにかかわってもらえるよう、取り組んでいきたいと展望を話していた。

ファミリーフットサルが今後ますます盛り上がっていけば“朝ごはんが作戦会議になる日”が、どの家庭でも見られるようになるだろう。



**平成20年度 (社)栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名 (敬称略)**

奥澤 直人  
 やしお観光バス株式会社  
 円印刷株式会社  
 ユー福祉タクシー  
 北山 亮  
 ガレージ エルドラド  
 安達 賢二  
 矢板中学校サッカー部後援会  
 鹿沼フットボールクラブOB会  
 石崎 忠利  
 小池 一規  
 FCスポーツ宇都宮  
 共英FC保護者会  
 小林 惣一郎  
 小林 茂  
 ジェフ ユナイテッド クオーレ  
 FC西那須 21槻沢  
 滝の原サッカーOB会  
 檜山 達夫  
 JBUS宇都宮サッカークラブ  
 (有)大貫企画  
 芳賀中サッカー部保護者会  
 FCブロード  
 (有)カタヤマ自動車  
 宇東高サッカー部親の会  
 栃木信用金庫  
 益子SCストラダ  
 日立栃木ウーヴァスポーツクラブ  
 加藤 一男  
 宇都宮北高サッカー部OB会  
 岡本FC  
 永澤 道明  
 野木SSS  
 SAKUR FOOTBALL CLUB  
 SAKURA FOOTBALL CLUB後援会  
 SAKURA FOOTBALL CLUB保護者会

御厨FC  
 丸山 政光  
 シノザキスポーツ  
 宇都宮大学サッカー部OB会  
 真岡中学校サッカー部協力会  
 F.C.佐野ジュニアユース  
 三田 進  
 關 保一  
 河内SCジュベニール  
 天満屋 庄三  
 FC西那須 21 アストロ 保護者会  
 FCスピリット  
 泉FC宇都宮  
 佐野日大高校サッカー部保護者会  
 真岡高校サッカー部 父母の会  
 東那須野サッカースポーツ少年団  
 今市第三カルナヴァル  
 増淵 貴敏  
 早川 敏彦  
 久保 正男  
 諸隈 弥  
 亀井 一男  
 矢口 通夫  
 小倉 勉  
 金子 和美  
 根岸 誠一  
 真岡SCアーギアOB会  
 小山市立小山城南中学校サッカー部  
 高橋 勉  
 益子芳星高校サッカー部保護者会  
 埼玉FC  
 真岡市立大内中学校サッカー部  
 藤田 利一  
 和氣 智恵

オフィシャルサプライヤー  
**ミズノ株式会社**

**< 編集後記 >**

約1年ぶりの発行となった今回の広報誌では(財)日本サッカー協会PHQの清水係長に寄稿していただいた。(P15に掲載)本記事はJFAnews11月号に掲載されているが、是非、栃木FAの広報誌に転載してほしいと清水係長ご本人からの依頼もあり、初の試みではあるが県外からの投稿になった。今後も嗜好を変えて、いろいろな方から投稿していただき、より楽しめる広報誌にしたいと思います。

(文責:記録広報委員長 川端宏之)